

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・昨年度は、臨時休校の影響か肯定意見が減少した項目もあったが、今年度はコロナ対応が上手くできるようになり、全体として改善され、特に「学習指導」「進路指導」については高い評価を得ている。 ・「本校に入学できてよかった」という生徒や「子どもは喜んで学校に行っている」という保護者の肯定意見は90%を超えているので学校経営全般が好意的に受け止められていると感じる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域とともに魅力ある高校づくりを進める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画、職員会議 ・活力ある高校づくりワーキンググループ (WG)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。 (2) 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。 (3) ふるさと教育の推進と飛騨市学園構想により課題解決に取り組む学習を充実させます。	(1) (3) 学校運営協議会委員、保護者による評価 (2) 中学生の進路希望調査、1日入学参加者数、生徒・保護者による学校評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・県の「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」実践校として地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発（「総合的な探究の時間」、学校設定教科「ESD」等） ・新学習指導要領施行に向けて本校の教育目標実現のための教育課程編成と観点別評価の作成 ・「理数教育フラッグシップ推進事業」の推進	①地域とともに魅力ある高校づくりを進めたか。 ②実態に即した教育課程編成や観点別評価の準備をしたか。 ③理数科の特色を伸ばしたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○昨年度コロナ禍で実施できなかった「サイエンス教室」や小、中学生の夏休み学習サポーター等も実施でき地域連携を深めることができた。 ○令和4年度以降の教育課程については学校目標を踏まえ、教員間で共通理解を深め編成を終えた。また観点別評価については、各教科で試行を行い来年度実施に向けて準備を始めた。 ▲地域と連携しながら生徒の課題解決能力を育んできたが、どうしても限定的な取組となり、全ての教科を横断した中で探究的学びを深めていく段階になるにはまだ共通理解ができていない。	
12	来年度に向けての改善方策案 ・策定された「スクールポリシー」を踏まえ、新たな教育課程の中で「伝える力」「見つける力」「解決する力」を「総合的な探究の時間」や学校設定教科「ESD」だけでなくあるゆる教科を横断する中でどう生徒に身に付けさせていくか吉高版ルーブリック（吉城高校で生徒に身に付けさせたい力）で共通理解をしながら進めていきたい。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・保護者や生徒からの評価も高く、初期目標は、達成されたと思う。 ・コロナ禍での制約はあったが、サイエンス教室や学習サポーターなど地域連携ができています。 ・吉高版ルーブリックについてどこまでを目標とするか生徒、先生、保護者が共通理解を深める必要がある。 ・吉城高校が目指す「魅力」を明確にする必要があるのではないか。
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教科指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学習評価、一人ひとりの能力に応じた指導、学習の理解、総合的な探究の時間や課題研究のすべてにおいて、生徒・保護者ともに肯定的意見が増え、否定的意見が減っており、一人一台端末整備にともなうICT機器を活用した授業改善が着実に進んでいると感じている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 授業改善と学習指導の充実に努め、主体的・協働的に取り組む態度を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各担任会、副担任会、教科会 ・公開授業・研究授業、教員研修会 ・教育課程委員会、及び、学習指導委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ態度を育て、新しい価値を創造する力を身に付けさせます。	① 生徒による授業アンケート、教員相互の評価 ②③ 授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価	
② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行います。		
③ 一人一台端末やMetaMoJi ClassRoomを活用した学習活動を充実する中で、公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒が主体的・協働的に取り組む事のできる場を多く作り出します。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・研究授業や公開授業による指導力向上 ・アンケート・調査による学習活動の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の設定と評価 ・各教科の授業改善（ICT機器活用）	①授業は改善されたか ②家庭学習時間が確保されているか ③個に応じた学力は身に付いたか ④教育活動は円滑に行われているか ⑤生徒は満足しているか	A (B) C D A B (C) D (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○新学習指導要領下での観点別学習評価の方法について研修を重ね、次年度にむけて各教科会でシミュレーションを行っている。 ○総合的な探究の時間では、各年次の「地域の大人と語る会」「大人から学ぶ未来デザイン」「様々な角度からキャリアを考える」などの本校独自のキャリア活動を継続させながら、2年次の「地域版SDGsを作ろう」においては普通科79名を20のグループに分け、課題設定→情報収集→整理分析→まとめを半年かけて実施した。 令和5年度からはじまる学校設定科目「地域プロジェクト学習」に活かしたい。 ○本校の教育活動をもっと理解してもらうために、中学生保護者説明会（2回開催）や近隣中学校3学年会への広報活動には多くの方々の出席を頂き、高校選択のミスマッチを防ぐよう努力した。 ▲各教科における観点別学習状況評価のルーブリック作成が本校の課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・一人一台端末の導入により授業そのものが大きく変化した。さらに研修を重ね、授業改善を進めたい。 ・生徒が「やらされる学習」から「主体的な学び」へと変わることのできる、教科や総合的な探究の時間の仕掛けを次々と作っていきたい。 ・新学習指導要領下でのカリマネと学習評価は表裏一体である。観点別学習状況評価は成績付けや判定が目的ではなく、教員の指導改善や生徒の学習改善が目的である。主体的で対話的な深い学びを目指すことで議論が行われる授業を大切に、教科ごとの身に付けさせたい能力のルーブリックを作成したい。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

### 【意見・要望・評価等】

ICT機器を活用した授業改善が進み、生徒・保護者ともに満足度が高い点が素晴らしい。また、中学生保護者説明会等の広報活動が実施されており、魅力を伝えることで目的を持って入学する生徒が増えており継続して頂きたい。一方、重点目標である「主体的・協働的に取り組む態度」の評価規準が分かりにくい。「やらされる学習」から「主体的な学び」へ変わる中で、家庭学習時間の評価が低いことが気がかりである。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・社会のルールやマナー、身だしなみについての指導については生徒、保護者共に肯定的意見が90%以上を継続している。また、教育相談への保護者の評価が伸びており、教育相談への関心の高まりと共に、相談体制の充実が理解されてきたのだと思われる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇共感的な理解に徹することを継続していき、望ましい人間関係と自己指導能力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会・いじめ防止等対策検討会議 ・スクールカウンセラー・各学年会・職員会議 ・生活委員会・MSリーダーズ活動	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育む。 (2) 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。 (3) 学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。	(1) 生徒・保護者・職員への生活安全調査（年3回） (2) いじめ防止等対策検討会議での評価（弁護士・SC・地域代表・育友会長他） (3) 生徒・保護者による学校評価、身だしなみ指導件数、ネット・SNSによるトラブルの増減等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・いじめ、心の悩み対策として、年間3回の生活安全調査の実施、年間3回のいじめアンケート、月1回の心のアンケートの実施。いじめ防止等対策検討会議実施。学校安心安全チェック（月一回） ・学年会・職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。 ・スクールカウンセラーの活用。 ・日常の生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導情報モラル指導、身だしなみ指導）の実施。 ・SNSトラブル回避の啓蒙活動・人権LHR	① いじめ問題は起きては被害生徒が不登校となる重大事案は起きていないか。 ② 生活安全調査やアンケート等の結果を学年会・職員会議で共有できたか。 ③ 生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より改善したか。問題行動の件数の増減。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	総合評価	
○問題行動はほとんどなく、小さなことも学年会と協力して迅速に対応できた。 ○いじめ問題に関しては方針に則り、組織的に対応できた。 ▲スマホの使い方、特にSNSに起因する問題行動は依然としてあり、予防活動に力を入れる必要がある。 ▲心の問題を抱える生徒が多くおり、今年もスクールカウンセラーの希望が多くあった。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	・教員間の情報交換を密にして、生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に一層心がけると同時に問題行動やいじめ問題の予防に力を入れたい。 ・スマホの使い方重点を置き、家庭とも協力し、あらゆる機会を捉えて啓発していく必要がある。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】
・心の問題を重症化させることなく早期に改善できるよう、万全な体制を構築する必要がある。 ・スクールカウンセラーの支援活用は躊躇なくされることが望ましい。 ・スマホに関わる諸問題は未然に防ぐことができるよう、予防活動に力を入れてもらいたい。 ・コロナ禍により更に対面での人とのコミュニケーションが希薄になっており、スマホ依存にならないようにしたい。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナ禍ではありながら、オンラインを活用するなどして説明会などを開催し、進路に関する情報提供	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・進路検討委員会、小論文等指導委員会、学習指導委員会 ・キャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループ、教務部、各学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 生徒が生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。 ② 高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。 ③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。	① 進路希望調査の結果や説明会等での生徒感想文 ② 大学入学共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③ 各種調査及び模擬試験等の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・総合的な探究の時間や、YCKプロジェクトへの参加・振り返りで自分の在り方や生き方を考え、進路希望を実現する。 ・補習に加え、面接・小論文指導を早期にスタートし、全教員による個別指導の充実を図る。 ・進路説明会、分野別説明会等を開催し、進路希望の選択・実現を支援する。	①早い時期に進路目標を設定できたか。 ②学力が向上し、情報を分析して自分の意見をまとめる力はついたか。 ③希望する進路を選択・実現しているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○就職、公務員試験、大学の総合型選抜・学校推薦型選抜で、一人の生徒に対して最低一人の指導教員が担当し、教員間での情報を密に図りながら地域進路指導を行うことができた。 ○オンラインを活用しつつ進路説明会を開催し、進路情報を提供することが出来た。 ▲生徒の読解力や表現力をより長期的なスパンに立って向上させる必要がある。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・コロナ禍が今後も続くという前提に立ち、オンラインなどを活用した十分な進路の情報提供の在り方を検討していく。 ・生徒の進路実現に資する探究学習を、他分掌と連携しながら研究、実施していく。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間、YCKプロジェクトへの参加等で人間力を高め、進路希望を実現させる今のスタイルをより高めて欲しい。</li> <li>・オンラインを活用し、多くの成果を出せたことは良かった。</li> <li>・さまざまな職業に興味を抱けるような生徒の育成に期待する。</li> <li>・生徒自身がライフプランを立て、早期から進路実現を支援しようとする姿勢はとても評価できる。</li> <li>・就職や推薦入試等に向けた指導を熱心に行っている。</li> <li>・これからも生徒たちによりそって、進路について相談にのって欲しい。</li> </ul>
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事、生徒会活動、部活動関連の項目で肯定的な回答をする生徒の割合が高く、学校における様々な活動に意欲的に取り組む生徒が多くなっている。 ・「学校は、子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている」と回答する保護者の割合も高く、学校の情報発信の成果が現れている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・部活動運営委員会、生徒派遣審査委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
① ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援します。 ② 生徒が熱意を持ち、積極的に柏葉祭等の生徒会行事に取り組み、地域や社会、他者へ目を向け、自ら考え行動できる態度を育成します。 ③ 生徒が目的を持ち、自主的・自発的に部活動に参加できる環境を整備します。	①②球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、アンケートの実施とその結果分析 ③部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数、入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・様々な生徒会行事に向けて執行部会等諸会議を開催 ・広報活動により校外へ積極的に情報を提供 ・部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備	①球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わらせることができたか。 ②校外外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。 ③目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○コロナウイルスの影響で例年とは異なる形となったが、制約がある中で工夫を凝らして開催できた。次年度はコロナ対策を十分にとり、一般公開し、生徒の活躍を保護者や地域の方に見ていただけるようにしたい。 ○部活動への参加が今年度から1年生も自由参加となったのにもかかわらず加入率は例年並みとなった。写真部・美術部の全国大会出場に見られるように、生徒が部活動に意欲的に取り組み、多くの成果を挙げることができた。 ○ここ数年で、生徒会役員を希望する生徒や、活動に対してやりがいを持って取り組む生徒が増加した。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	今年度は、コロナ過の中、全校で芸術鑑賞を行うことができた、内容は生徒に馴染みのないオペラであったが、生徒の感性や興味感心を刺激することができた。芸術鑑賞によらず、放課後等の特別活動を通して生徒の主体性・個性・創造性・実践力等を引き出してあげられるような活動を積極的に行っていきたい。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・学校生活における生徒の繁忙さは生徒の主体的活動を阻害するもので、ゆとりの中で生徒自らの意思、主体性で活動させたい。また、主体性のみならず、個性、創造性、実践力を引き出して頂きたい。 ・文化祭など一般公開ができなかったのは残念だが、やりがいを持って取り組む生徒が増加したことをうれしく思う。 ・部活動の加入が自由になっても加入率が下がらなかったことはうれしく思う。様々な体験をして欲しい
---

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 健康安全指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃に関しては、例年並みの評価であったが、今年度教室棟の工事が入り全体的に清掃への意識が薄れた様子が見られる。</li> <li>・健康管理に関しては、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面に常に配慮できている。</li> <li>・安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができている。</li> <li>・非常変災時対応について肯定的意見が上昇した。全生徒に危機管理マニユ</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度の育成、環境美化を通じて豊かな心の育成を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全委員会、安全衛生委員会</li> <li>・生徒保健委員会、生徒環境委員会、防災リーダー</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る</li> <li>② 日々の清掃活動、マナー教育(公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①健康意識向上活動(掲示物・配布物)、健康診断受診勧告者受診率、命を守る訓練(様々な災害想定)、災害図上訓練実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士取得数</li> <li>②生徒委員会・職員による環境・清掃状況チェック</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個人への受診勧告、健康相談、月1回ほけんだよりの発行やポスター掲示等での健康面の啓発活動。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対応。保健委員による換気活動・換気状況チェックの実施。</li> <li>・職員へのアレルギー対応研修、部活動時、日常生活における事故防止の事前指導。</li> <li>・月1回の職員による安全点検、非構造部材の日常点検。職員・生徒による教室環境衛生点検、清掃点検(毎月)。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行、環境衛生日常点検での教室環境への整備意識づけ。保健委員によるトイレ環境衛生点検。</li> <li>・命を守る訓練(4回)。防災リーダーによる「防災について考えよう(2学年対象)」実施。</li> <li>・災害時備蓄品(全校生徒・職員3日分)の整備。災害対策マニュアル全生徒職員配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の健康管理</li> <li>②事故防止</li> <li>③安全管理、環境整備</li> <li>④防災</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
11 成果・課題	総合評価		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員よりに細部にわたる安全点検や非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等への迅速な対応ができた。</li> <li>○防災に関しては、防災リーダーが中心となり「防災について考えよう(2学年対象)」と題し、株式会社洞口、無印良品アスモ高山、飛騨市役所と連携し身近な防災活動や災害に対する備えについて発表した結果減災力テストの数値も伸びた。また、防災リーダーと地域貢献部による飛騨市主催「防災タウンウォッチング」にも参加した。昨年度より取り組んできた防災士資格取得に、防災リーダーを含め11名が講習会参加し資格取得を目指している(昨年度9名合格)。</li> <li>○命を守る訓練には全生徒真摯に取り組んでいる。非常変災時帰宅確認報告率は向上した。災害対策マニュアルを見直し、全生徒・職員に配布した。</li> <li>○昨年度、健康診断の受診勧告者受診率が低かったため、未受診者への受診勧告をこまめに行った。今年度は例年通りの日程で健康診断を実施できたこともあり、受診率が向上した。</li> <li>▲清掃に関しては、生徒・職員による点検、行事前清掃点検にて環境美化を促したが、本年度教室棟工事が入り美化意識が薄れた様子が見られる。再度意識向上させる必要がある。</li> </ul>	A (B) C D		
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症を踏まえた生徒職員の安全性を第一に考えた行事、事業の見直しが必要である。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

### 【意見・要望・評価等】

本年度教室棟の廊下床張り替えとトイレの洋式化に合わせてカーテン撤去によるドア設置等をしていただき、校内が綺麗で明るい雰囲気になった。この状態を維持できるように生徒のみならず教職員の美化意識向上について更に高めさせる必要がある。本校の防災教育(防災について考えよう、防災タウンウォッチング、防災士資格取得)については、高い評価を得た。

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号

60

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 (2) 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 (3) 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇キャリア教育	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナ禍でも、できることを模索しながらプロジェクトが推進できた。 ・学校評価アンケートの該当する項目では、保護者・生徒の肯定的意見が昨年度は85.4%・90.6%であったが、今年度は85.9%・91.8%であった。大きな変化はないが、概ね高い評価をいただいている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校づくり」を通し、課題解決能力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・地域創生キャリアプランナーを配置し、行政・地域との連携を図る。 ・他の分掌と連携し、指導計画及び指導体制を整備する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた・「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 (2) 「総合的な探究の時間」等を有効活用し、生徒の社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。	(1) YCKプロジェクトへの参加生徒数 (2) 生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用 (3) YCKプロジェクト報告会の開催	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
【学校設定教科】2科目(48名、16名) 【課外活動】16活動(243名) 【総合的な学習の時間】5活動(642名) 【各教科・科目の授業】2活動(130名) 【広報】3活動(7名)、【部活動】2活動(34名) 【1年生】612名、【2年生】474名、【3年生】137名	①YCKプロジェクトにどれくらい の生徒が参加しているか、適切な 振り返りができているか。 ②生徒の課題解決能力、主体性及び 協働して学ぶ態度が育っている か。 ③ポートフォリオ等を進路実現に 活用できたか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ(キャリアパスポート)が活用できていないので、3年生の志望理由や面接等の指導で苦労した。進路指導部などと協議して、3年間の活動実践が記録できるものを作成する。</li> <li>・2生の総合的な探究の時間におけるカリキュラム開発の有効性と課題を導き出し、改善案を検討する。</li> <li>・今年度も取組の成果が生徒の進路実現につながった。地域を舞台に、自分のキャリアと切り離せない課題を発見し、よりよく解決していく力を身に付けることができるように、学校と地域が様々な力を持ち寄って創っていく「みんなの学習」として、YCKプロジェクトを組織的に推進していきたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月4日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に赴き、広く深く探究することで、自ら課題を発見し、解決しようとする姿勢が、地域への理解にとどまらず、自己理解や自己肯定感の向上、さらには自己実現へとつながっている。</li> <li>・人づくり・まちづくりに大きな成果が期待できる。市民や中学生にもその思いを伝えてほしい。</li> <li>・課題解決能力の達成指標を検討すべきではないか。</li> <li>・飛騨市内の外国人実習生との交流会ができると、勤労観や様々な職種に対する考え方が広がると思う。</li> <li>・地域課題探究は学んだことを地域で活用する場となっており、テーマ設定の着眼点が良いと感じた。</li> <li>・資料やデータを有効に活用した探究ができるとよい。</li> </ul>